

DPC/PDPSに係る令和5年度特別調査の実施について（案）

1. 概要

- 令和6年度診療報酬改定に向け、DPC/PDPSについては、令和4年度特別調査の結果等も踏まえ、令和5年度特別調査の実施に向けた調査設計等を行うこととされている（令和5年5月10日中医協総会了承）。
- 令和5年度特別調査の具体的な調査内容等については、DPC/PDPS等作業グループにおいて検討を行い、以下のとおり取りまとめたことから、本分科会において提案するものである。

2. 背景・目的

（1）適切なコーディングについて

- 機能評価係数Ⅱのうち、保険診療係数においては、適切なコーディングを評価する観点から、様式1の「医療資源を最も投入した傷病名」のICDコードとして、「部位不明・詳細不明コード」（※1）を使用した割合について評価を行っている。
 ※1 部位や病態等を確認することにより、他のコードに分類される可能性が高いICDコードのうち一部を、「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料において指定している。
- 現在は10%以上を減点対象としており、ほとんどの病院で基準値を下回っている一方で、令和5年度において減点対象となっている病院も23病院存在する。
- 適切なコーディングはDPC/PDPSの安定的な運用の前提であり、令和4年度特別調査を踏まえ、コーディングに係る更なる実態把握が必要であると考えられたことから、「部位不明・詳細不明コード」の使用割合が高い理由や背景を把握するため、特別調査を実施することとする。

（2）短期滞在手術等の入院/入院外での実施状況について

- DPC/PDPSにおいては、短期滞在手術等基本料3の対象手術等（以下、「短在3対象手術等」という。）は、入院初日に大部分の報酬が設定される点数設定方式Dで算定することとされている。
- 短在3対象手術等には、全国での外来実施割合が高い短期滞在手術等基本料1の対象手術等（以下、「短在1対象手術等」という。）も含まれるが、そのうち、DPC対象病院における外来実施割合が低い手術等も存在する。
- 令和4年度特別調査において、外来で診療可能な症例を入院で診療している等の意見もみられたこと等も踏まえ、DPC/PDPSにおける短期滞在手術等の評価のあり方を検討するにあたり、入院/入院外での実施状況等を把握するため特別調査を実施することとする。

3. 調査の実施方法について（案）

- 調査区分（1）については、該当する病院に対して、使用回数の多い「部位不明・詳細不明コード」を通知した上で、コーディングの考え方等の調査項目を含む調査票の送付・回収を行う。
- 調査区分（2）については、DPC データを活用し、各区分につき該当する病院を最大 30 施設選定する。選定した病院には、短期滞在手術等の実施体制等の調査項目を含む調査票の送付・回収を行う。
- 調査票の回答状況を踏まえ、各区分につき、数施設程度ヒアリング対象となる病院を選定し、DPC/PDPS 等作業グループに招集する。

【調査区分】

区分	調査対象	調査対象施設数	ヒアリング対象施設数
(1) コーディングに関する調査	①令和5年度機能評価係数Ⅱにおいて、「部位不明・詳細不明コード」を使用した割合が10%以上の病院	23	数施設
(2) 短期滞在手術等に関する調査	②短在1対象手術等かつ短在3対象手術等について、一定以上の算定回数がある病院で、入院外での実施割合が低い病院	最大 30	数施設
	③短在1対象手術等かつ短在3対象手術等について、一定以上の算定回数がある病院で、入院外での実施割合が高い病院	最大 30	数施設

※2 令和5年4月時点のDPC対象病院（1,761施設）を対象として選定する

【調査項目（主なものの案）】

区分（1）コーディングに関する調査

- （通知した、各コードについて）当該コードを使用する患者の状態について
- （通知した、各コードについて）コーディングを行う上で不明な点があるか
- コーディングに際しての「DPC/PDPS コーディングテキスト」の活用状況
- コーディングに際しての診療情報管理士の関与状況 等

区分（2）短期滞在手術等の実施状況に関する調査

- 当該手術等を入院で実施する際の設備や診療体制について
- 当該手術等を入院外で実施する際の設備や診療体制について
- 調査対象病院における、当該手術等を実施する症例の特徴について
- 当該手術等を入院/入院外で実施するにあたっての方針や判断基準について
- 当該手術等について、入院での実施が必要となる理由や背景について
- 当該手術等の実施に係る地域での連携体制について 等